

<全体分析>

試験時間 2科目 120分

解答形式

論述, 記述

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

大問数は前年と同じ3題であった。全体のページ数は6→9ページと増加し、設問数の合計も23問→26問と増加し、論述量の合計も49～50行程度→63行と増加したので、全体の分量は増加した。また、実験考察問題が増加し、書きにくい長文の論述も多かったため、やや難化した。

出題の特徴と昨年との変更点

論理的思考力を要求される実験考察や長文の論述問題が出題され、論述量が非常に多い。

グラフ作成などの描図がよく出題される。

正しい選択肢を全て選ぶ設問が5問出題された。

その他トピックス

特になし

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
〔I〕	論述 記述 選択	進化・代謝 「細胞内共生」	生物	問1 (あ)に好気性細菌,(い)にシアノバクテリアを入れても文章は成立する。この場合、問3の正解はa, b, c, d全てとなる。 問3 アーキアの細胞膜を構成するリン脂質は、エーテル脂質と呼ばれる脂質で、細菌や真核生物の細胞膜のエステル脂質とは異なる。	標準
〔II〕	論述 記述 選択	光と植物の生長	生物	問3 (あ) 赤色光を吸収した後の遠赤色光吸収型(Pfr型)フィトクロムが光発芽に関わっている。	標準
〔III〕	論述 記述 描図	腎臓と 血糖濃度調節	生物基礎 生物	問8 タンパク質AはSGLT2と呼ばれるグルコース輸送タンパク質で、その阻害剤は糖尿病の治療薬として実用化されている。解答例の他に、実際に起こりやすい副作用としては尿路感染症などがある。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

論述問題が非常に多いので、2～4行程度で要領よくまとめる練習をしておく必要がある。
描図やグラフ作成もよく出題されるので、教科書に出てくる重要な図をしっかり見ておくこと。
難しい実験考察問題が多く出題される。数年分の過去問の研究をしよう。